

## 岩国市・和木町ブロック勉強会 報告書

日 時：平成28年10月21日（金） 19時から21時

会 場：岩国市福祉会館 3階 会議室

テ ー マ：援助職としてどのように記録を書くか？

講 師：訪問看護ステーション つくし 介護支援専門員 松井清之 氏

参 加 者：13名（内、社会福祉士正会員11名）

報 告 者：岩国市、和木町 ブロック長 平岡 龍一郎

報告作成日：平成28年10月27日

今回、「援助職としてどのように記録を書くか？」を研修テーマとしまして、松井清之氏に講師をして頂きました。松井氏から、前半は記録の目的、記録の果たす役割、必要とされる要素について、文献（援助職の記録の書き方 著書 八木亜紀子）を基に説明して頂き、そして、実際に記録を書く上での、適切な表現（具体的な表現、専門用語略語を避ける等）と留意点（レッテル貼を避ける）についてご講義して頂きました。後半はワークシートを活用した、肯定的な表現の書き方、ロールプレイ（相談員役と利用者役）を通して、適切な記録の書き方について演習して頂きました。

その中で「記録は電化製品のマニュアル文章のように書くべき⇒誰が見ても迷いなく理解することが出来るから」と言われた言葉が、印象的であり、記録の言葉の大切さ、第三者への分かりやすさが重要であることを改めて感じさせて頂きました。

最後に、参加者からの質問で、「面談記録は聞き取ったどの範囲まで記録すべきなのか？」「電話相談での記録の書き方、整理の仕方が難しい」など、参加者が抱えている悩みについて質問が飛び交い、活気ある研修を計画出来ました。

